

トマトのネコブセンチュウ防除におけるホスチアゼート液剤の 処理適期

農業研究部

1. 研究の背景

ホスチアゼート液剤は、現在トマト栽培中に使用できる唯一の殺線虫剤であるが、効果的な処理時期は不明である。そこで、ネコブセンチュウの防除に効果的な処理時期を検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

試験場内で定植4、6、8週間後に、ホスチアゼート液剤を処理したところ、定植8週間後処理が最も効果が高くなった(表1)。現地試験でも同様に定植8週間後処理で効果が高くなった(表2)。本剤は液肥混入器で簡単に処理が可能であり、マルチの下に処理するため、蜂への影響は認められなかった。

表1 場内試験結果(2015年)

処理時期	根こぶ指数	防除価
定植4週間後(7/29)	75.0	9.1
定植6週間後(8/12)	87.5	0
定植8週間後(8/26)	57.5	30.3
無処理	82.5	-
無処理(無接種)	0	-

表2 現地試験結果(2016年)

処理時期	根こぶ指数	防除価
定植8週間後(8/5)	5.6	93.3
定植12週間後(9/5)	20.1	75.9
無処理	83.3	-

※根こぶ指数 = $(4A+3B+2C+D)/4N \times 100$

[A: 4の株数、B: 3の株数、C: 3の株数、D: 1の株数、N: 調査株数]

0: 根こぶなし。1: 根こぶがわずかに認められるが、被害は目立たない。2: 一見して根こぶが認められる。大きな根こぶやつながった根こぶは少ない。3: 大小の根こぶが多数認められる。根こぶに覆われて、太くなった根も見られるが、根域全体の50%以下。4: 多くの根が根こぶだらけで太くなっている。

※※表1の試験では1株あたりネコブセンチュウを約500頭接種した。表2の試験では定植前にバスアミド微粒剤を処理し、定植直後の土壌20gあたりのネコブセンチュウ数は0頭であった。

3. 期待される効果

本対策を実施することでネコブセンチュウ被害が軽減される。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム
TEL: 0974-28-2078
住所: 豊後大野市三重町赤嶺2328-8